

一、次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

昔、秀才で有名だった私のボーイフレンドの息子が、登校拒否になつた時、私はそれを大した悲劇だとは思わなかつた。私はまずボーイフレンドに向かつて ② 「あなたが悪いのよ」と言つた。

「お父さんが東大法学部出身なんて、息子に A 重圧をかけるだけですからね。父親より秀才になるなんてこと、できないわけだから、最悪だわ」

実は私が登校拒否の B ジジツを重大視しなかつたのは、全く別の理由からだつた。私は自分の息子と同じくらいの年頃の、その「登校拒否さん」と会うといつも会話が樂しかつたのである。その時彼はまだ中学生だつたと思うのだが、彼は私に自分が今「凝つている」ビートルズや、他のグループ・サウンズなどの話を解説的にしてくれて、私は大いに新しい C チシキを得たし、彼の考え方眼を開かされたような気がしたのである。

つまり彼は、中学生でも、立派に大人の話し相手ができる子だつたのである。こんな優秀な子が落ちこぼれなどであるわけがない。しかしとにかく彼は登校を拒否していく、成績も悪かつたのである。今でも言えることは、登校拒否したような子供で、劣等生は一人もいないのではないか、ということだ。

私は思いついて、秀才のお父さんに、或るキリスト教系の寄宿学校を紹介した。家と親から彼を引き離すことがまず大切なことだ、と D セケンテキにも言われていたからである。学校側も事情を理解してくれ、親たちも納得して、彼は生まれて初めて生家から離れて近県で暮らすようになつた。

学期の初めに、クラス分けがあつたという。もちろん学力テストの結果であつた。その結果、彼はもっとも学力の低い組に入れられた。

③ 「よかつたわねえ」と私は言つた。

「そこでわからないところを初めからていねいに教えてもらえる、ってことじやないの。それに今以上落ちる方法がないんだから、あなたは実にいいところにいるんだわ。後は上がるだけじゃないの」

中学生は私の言い方におかしそうに笑つてくれた。人間、現状を客観的に見て笑えれば、たいていの窮地から脱出できるのである。途中を E 省いた報告をすれば、彼は立派に立ち直り、父親と同じ東大法学部にこそいかなかつたが、立派な社会人になつた。中学生時代の挫折など、笑い話になつたのである。

いいだけの人生もない。悪いだけの生涯もない。ことに現在の日本のような恵まれた状況では、そのように言うことができる。それでもなお、多くの日本人が④ 不平だらけなのだ。

まず私の実感を述べておこうと思うのだが、もし人生を空しく感じるとしたら、それは⑤ 目的を持たない状況だからだと言つうことができる。

たとえば高齢者に多いのだが、朝起きて、今日中にしなければならない、ということが何もない。だからどこへ行つたらいいのか、何をしたらいいのかわからない。どうして時間をつぶそうかと思う。時間というものは皮肉な「生き物」で、することがたくさんある健康人にとっては素早く経ついくものなのに、することのない人や病人には、きわめて

のろのろとしか経過しないものなのである。絶対時間というものは果たしてあるのだろうか、と思うくらい ⑥ 心理的なものだ。

年齢にかかわらず、残りの人生でこれだけは果たして死にたいと思うこともない、と言う人は実に多い。諦めてしまつたのか、もしかすると、⑦ 目的というものは偉大なものであるべきだ、と勘違いしているからか、どちらか私にはよくわからない。

私の目的は、多くの場合、実に小さい。今日こそ入院中のあの人には少しは退屈紛らしになるような手紙を書こう。冷蔵庫の中の長ネギ二本を使つてしまおう。引き出しの三段目の中で散らかっているクリップやメモ用紙を整理しよう。その程度のものだ。そしてそれだけ果たすと、私は満足と幸福で満たされる。我ながらかわいいものだ、と思う。

「人間にとつて成熟とは何か」曾野綾子

問一 二重線部 A～E のカタカナを漢字に、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①「大した悲劇だとは思わなかつた」について、私がその理由を述べている部分を解答用紙に合うように二十四字で抜き出しなさい。（句読点も字数に含みます。）

問三 傍線部②「『あなたが悪いのよ』と言つた」について、私がその言葉を言つた理由として最も適切なものを次から選びなさい。

- ア 息子を甘やかしていたから。
- イ 息子を冷やかしていたから。
- ウ 息子に重圧をかけていたから。
- エ 息子に頼つっていたから。

問四 傍線部③「よかつたわねえ」について、筆者がこのように話したのは、どのような意図があるからですか。それがわかる一文を抜き出し、はじめの五字を答えなさい。（句読点も字数に含みます。）

問五 傍線部④「不平」について、意味として最も適切なものを次から選びなさい。

- ア 満足しないこと。
- イ 心がおだやかなこと。
- ウ 不満に思わないこと。
- エ 満足すること。

問六 傍線部⑤「目的を持たない状況」について、どのような状況を言っていますか、本文中の言葉を用いて、三十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑥「心理的なものだ」について、筆者は何を心理的だと言っていますか、漢字二字で抜き出しなさい。

問八

傍線部⑦「目的というものは偉大なものであるべきだ、と勘違いしている」について、筆者は目的はどのようなものであると主張していますか。最も適切なものを次から選びなさい。

ア 今できそうにない、とても大きいことだけを目的とすると空しくなるが、身近な自分が今できることを目的とし、成し遂げることで満足することができる。

イ 今できそうにない、とても大きいことを目的とすると希望に胸が膨らむが、身近な自分が今できることだけを目的とし、成し遂げることでは満足できない。

ウ 今できそうにない、とても大きいことだけを目的とすると空しくなるし、身近な自分が今できることを目的とし、成し遂げることでも満足できない。

エ 今できそうにない、とても大きいことだけを目的とすると満足でき、身近な自分が今できる」とを目的とし、成し遂げることでは満足できない。

二、次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

① 星のかけらの伝説をぼくに教えてくれたのは、塾の友だちのマサヤだった。

「伝説っていうか、ウワサなんだけどさ」

マサヤは言つた。

「ネットかなにかの?」とぼくは訊いた。

「違う。中等部の先輩が言つてた」

マサヤは私立大学の附属小学校に通つている。A 地元の公立に通うぼくと顔を合わせるのは、週に三日ある塾の時間だけだ。学校の違う子とB ナカヨくなつたのはマサヤが初めてだつた。そしていま、ぼくの友だちは、マサヤしかいない。

「ここ大事だから、もう一回だけ C トクベツサービスで言つちやうぞお」

塾で算数を教えるカタオカ先生の D 物真似をして、マサヤは話を繰り返した。

「星のかけらがお守りになるんだ」

「うん……」

「それを持つてると、嫌なことやキツいことがどんなにたくさんあつても、しつかり耐えられるんだよ」

「でも、星のかけらって、ホンモノの星のかけらなの?」

ぼくの質問に、マサヤはあきれ顔で笑つた。

「そんなこと言つたら、石ころだって地球つて言う星のかけらだろ?」

確かにその通りだつた。

② 「星のかけらってのは、たとえなんだよ」

ぼくは黙つてうなずいた。同じ六年生でも、マサヤはぼくよりずっとオトナっぽい。私立の名門校に通つてゐるからなのだろうか。それを言うと、いつも「関係ねーよ」とオトナっぽく怒られてしまうのだけど。

「ユウキだつたら、どんなものを星のかけらにたとえる?」

ぼくは黙つたまま、今度は首を横に振つた。国語は E ニガテだ。テストではいい点がどれとも、「自由に想像して書きなさい」とか「思いつくものを挙げてみなさい」という

質問があると、たちまち頭の中が真っ白になってしまって、鉛筆が動かなくなる。

マサヤもそのことを知っているから、③ぼくの答えを待たずに、あっさりと正解を教えてくれた。

「自動車のフロントガラス」

割れて小さな破片になつたフロントガラスが、星のかけら。

「じゃあ、クイズをもう一問、フロントガラスが割れるのって、どういうときだと思う？」

「……交通事故」

マサヤは親指と人差し指で〇をつくつて、「交通事故の現場に落ちてるんだ、星のかけらは」と言つた。

昼間だとよくわからない。探すのなら、夜がいい。

「キラキラ光つてるんだって。街灯の明かりや月明かりに照らされて、道路のあつちこつちで光つてるのがすごくきれいで、夢の中の世界みたいなんだ」

「見たことあるの？」

「ないよ、だからウワサだつて言つてるだろ」

「中等部の先輩は？」

「その先輩もウワサで聞いただけだから」

なんだ、とぼくは④笑つた。ちょっと拍子抜けして、がっかりした。

「でも、きれいだと思わないか？」

真夜中の道路を思い浮かべた。車の流れが途絶えて、しんとした道路に、数え切れないほどのフロントガラスの破片が散らばつて、キラキラ光つている。

ほんとだ、と⑤思わず声が出そうになつた。悲惨な交通事故の現場を美しいと思うのは、間違つてゐる。それはわかつていても、やっぱり、きれいだ。

ぼくはなにも言わなかつたけど、きっと横顔の表情で伝わつたのだろう、マサヤは「なつ？」と笑つて、話をつづけた。

「そこから先は、いろんな説があるんだ、そのウワサ」

「そうなの？」

「うん……中等部の先輩もよくわからないって言つてた」

どんな場所のどんな星のかけらでもお守りになる、というわけではない。⑥厳しい条件を満たした星のかけらでないと効き目がないらしい。その条件が、ウワサを話すひとによつてさまざまなのだ。

「ひとが死んだ事故じやないとダメだとか、逆に、ひとが死なかつた事故じやないと意味がないとか、死んだのがオレらみたいな小学生じやないとダメだとか、その反対で、小学生の子どもだけが生き残つてないといけないとか……」

わけわかんないだろ、とマサヤは笑つた。ぼくはうまく笑い返せなかつた。小学生が死ぬ。「もしも」や「万が一」の話ではなくて、そんな交通事故は毎日のように起きている。ぼくやマサヤだつて、いつ自分がそうなつてしまふかわからない。だから、むしょうに胸がドキドキする。

死ぬ。しぬ。シヌ。英語で言つたら、デツドだつけ、デスだつけ。四年生や五年生の頃には平氣でつかっていたのに、最近は「死ぬ」という言葉が怖い。口にしたり、耳にしたり、読んだり、書いたりするたびに、息が詰まるような苦しさに襲われる。いつからそ

なつてしまつたのか、なんとなく見当がつくから、いまは考えたくない。

「それさ……」とマサヤがさらに話をつづけようとしたら、休み時間の終わるチャイムが鳴つた。

「はい、教室に入りなさい」

事務長のおばさんの声に、廊下に出て遊んでいたみんなは教室に駆け込んだ。

「ユウキ、行こう」

マサヤにうながされて、ぼくはみんなの最後に教室に向かう。途中で追いついてしまわないよう気をつけて、ゆっくりと。

教室に向かいながら、マサヤは言つた。

「星のかけらって、いいと思わない？」

黙つてうなずくと、「探してみろよ。どこかに落ちてるかもしれないぜ」とつづけた。

「うん……」

「オレ、おまえには星のかけらが必要だと思う」

きつぱりと言つたマサヤは、受験コースの教室の前にたむろしていたヤツらを「そこ」、じやま」とにらみつけた。

ぼく一人だつたら絶対に足をひっかけられる。背中を蹴^けられるかもしれない。でも、ヤツらはすぐにマサヤから目をそらし、こそそと教室に入つていつた。

⑦その背中^をにらんだまま見送りながら、マサヤはつぶやくように言つた。

「星のかけら、あるといいよな、ほんとに」

ぼくは小さくうなずいた。

じやあな、とマサヤは軽く手を挙げ、自分の教室に向かつた。中学にはエスカレーター式に進学できるマサヤは、マンツーマンの英会話講座を受けているのだ。

授業中は別々の教室なのに、休み時間は、みんなからいじめられているぼくを守るために一緒にいてくれる。マサヤは優しい。優しいから、星のかけらの話だつて、もしかしたら――。

マサヤは英会話の教室に入るときにぼくの視線に気づき、おまえも早く教室に入れよ、というジエスチャーをして笑つた。

ぼくも笑い返す。でも、ほんとうは、⑧ ちょっと泣きたい気持ちでもつた。

マサヤに助けてもらつたあとは、いつもこうなる。

「ありがとう」と言えればいいのか、「ごめんな」と言つたほうがいいのか、それともまったく違う言葉を言わなくてはいけないのか。

マサヤはそばにいるときには、いじめに遭^あわない。その代わり、ゲームみたいに「臆病者」「弱虫」のポイントがどんどん貯まつていく気がする。

それがいつも悔しくて、ときどき悲しくなつて、自分の事が嫌いになつてしまつときだけつて、ある。

「星のかけら」重松清

問二 傍線部①「星のかけらの伝説」について説明した次の文の（ ）にあてはまる言葉を、（ ）内の字数で本文中より抜き出しなさい。

星のかけらは（三字）になり、それを持っていると嫌なことや（五字）があつても耐えられるようになるということ。

問三 傍線部②「星のかけらっていうのは、たとえなんだよ」について、星のかけらは、何のたとえですか。本文中より抜き出しなさい。

問四 傍線部③「ぼくの答えを待たずに、あっさりと正解を教えてくれた」について、なぜマサヤは正解を教えてくれたのですか。最も適切なものを次から選びなさい。
ア ぼくはテストではいい点が取れないが、作文は得意だったから。
イ ぼくはテストではいい点を取れても、想像して書くことがニガテだったから。
ウ ぼくは作文は得意ではなく、想像して書こうとすると時間がかかるから。
エ ぼくは作文は得意で、テストで点数を取ることよりも積極的になれるから。

問五 傍線部④「笑った」について、その理由として最も適切なものを次から選びなさい。

- ア マサヤの拍子抜けしてがっかりした様子に心配したから。
- イ マサヤが親指と人差し指で○を作ってくれてうれしかったから。
- ウ マサヤがとてもたくさん楽しい話をしてくれるから。
- エ マサヤの話があくまでもウワサで、実際に見た人がいないから。

問六 傍線部⑤「思わず声が出そうになつた」について、その時の主人公の思いとして最も適切なものを次から選びなさい。

- ア 「本当に静かだね」
- イ 「本当に怖いね」
- ウ 「本当にきれいだね」
- エ 「本当にさみしいね」

問七 傍線部⑥「厳しい条件」について、条件にふさわしくないものを次から選びなさい。

- ア ひとが死んだ事故じやないとだめ。
イ ひとが死ななかつた事故じやないと意味がない。
ウ 大人だけが生き残つてないといけない。
エ 小学生の子どもだけが生き残つてないといけない。

問八 傍線部⑦「その背中をにらんだまま見送り」について、マサヤはなんのために、にらんでいたのですか。本文中より二十字で抜き出しなさい。

問九 傍線部⑧「ちょっと泣きたい気持ち」について、そのような気持ちになつた理由が述べられている部分を抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。（句読点も字數に含めます。）